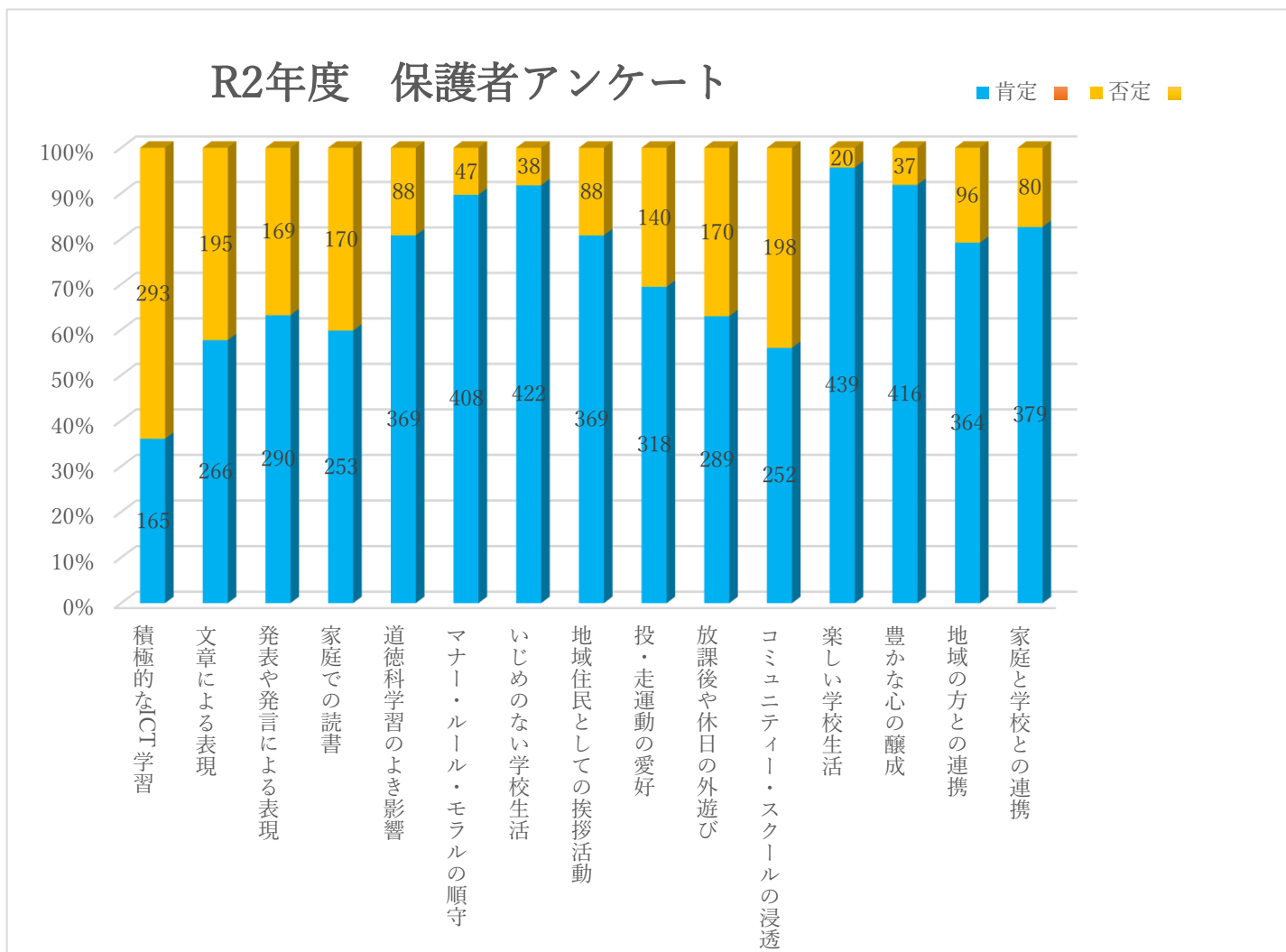


<令和2年度 保護者アンケート>



学習

1、「お子さんは、家で、パソコンやタブレット端末、スマートフォンを使って勉強をしていますか。」



保護者の肯定的回答は36.0%です。しかしながら、児童アンケートでは、「授業中、自分でパソコンを操作して学習を進めていくことができましたか。」の問いに94.0%が「できた」「どちらかと言えばできた」と答えています。

子どもと保護者の回答に、どうしてこのような差があるのでしょうか。まず、ICT環境の差です。学校では限られた学習時間ですが、その間は自分が何の制約も受けずに自分の端末を使うことができます。しかし、家では保護者等大人の使用が優先され、「仕事だから」と言われれば、子どもが自由に使えません。そのうえ、兄弟姉妹がいれば、子ども一人

当たりの使用時間は、もっと少なくなります。また、大人が横に付いていないと、有害なサイトに入ってしまったたり、際限なくゲームに興じたりするので、子どもに勝手に使わせないご家庭もあるかと思えます。

冬休みからは、一人1台のタブレット端末が市から配布されます。セキュリティーも厳しく設定されていますので、親御さんも安心していただけたらと思います。これからは、自然



災害や感染症予防で臨時休校になったときも、タブレットを使って遠隔授業を行う予定ですので、日常的に子どもたちが端末を操作できるよう、ご家庭でもご協力ください。

2、「お子さんは、自分の考えを文章に書くことに、抵抗なく取り組んでいますか。」



昨年度、この質問に「そう思う」「概ねそう思う」と回答した保護者は63.3%でした。本年度は57.7%になり、ますます低い数値になっています。しかし、児童アンケートの「授業中は自分の意見を書いてまとめましたか」の質問には、86.7%が肯定的回答をしています。ICT 機器の普及で、一番懸念されていることが「書くこと」の衰退です。

今までは先生が黒板に何か書くと、児童は即それをノートに書き写しました。先生の上手な字と、工夫された図に憧れ、書いているうちに思考の再構築が起り、理解できなかったことが理解できるようになり、学んだことの定着につながったわけです。今、ICT 機器が増え、スクリーンに映る情報量も多く、ノートに写すこともままならず、・・・授業の最後にはスクリーンに映し出された画像が印刷されて配られますので、ノートに書く必要がありません。しかし、このままでは書きながら自分の考えをまとめたり、深めたりすることはできません。そこで担任は、「個人で記入させる → グループでまとめる → 自分の意見を発表する」ことをどの授業でも行い、自分の意見を書いてまとめることに力を入れています。

3、「お子さんは、自分の意見を積極的に人前で発表できるようになっていますか。」

昨年度、「そう思う」「概ねそう思う」と答えた保護者の割合は85.3%でした。そして、今年は63.2%で22.1ポイントも減りました。これには大変驚いています。どうしてこのような結果になったのでしょうか。学校では子どもが発表に自信を持つように発表原稿を書かせたり、話型を提示して発表しやすくしたり工夫しています。よって、「発表する機会がたくさんあった」と感じている子どもは、実は77.8%なのです。

今年は感染症対策のため、参観等の学校行事で、保護者に学校生活の様子を公開することが、ほとんどありませんでした。つまり、お子さんの学校生活の様子を見ていただく機会がほとんどなかったわけです。個人発表、グループ発表、行事での挨拶など、今まで自分を表出できる場がたくさんあったのに、それがほとんどなくなり、ご家庭での様子でしか、お子さんの成長を確かめる場がありませんでした。ご家庭でのお子さんの姿は、まだまだ頼りなくて、引っ込み思案なところばかりが目立つかもしれませんが、私たち教職員は、子どもたちが成長していることを日々感じています。



4、「お子さんは、ご家庭でも、楽しんで読書活動をしていましたか。」



「そう思う」「概ねそう思う」と答えた保護者の割合は、一昨年が54.0%、昨年が72.0%です。本年度は59.8%で、前年度比-12.2ポイントです。子どもの読書離れは、昨年度の学校評価委員会でも、また本年度の学校運営協議会でも心配されていたことでした。楽しんで本を読むには、子ども一人一人の興味関心や語彙力、集中力に合った本を選ぶことが重要です。本年度の教職員のためへのひとつに「子ども一人一人に合わせた選書」があります。3学期はこのことにも力を入れていきたいと思えます。

生活

5、「お子さんの言動で『変わってきたな。よくなってきたな。』と感ずることがありましたか。」

「そう思う」「概ねそう思う」と答えた保護者の割合は、80.7%でした。昨年度は「お子さんの言動に、よい変化が見られたと思われませんか。」の質問に、「そう思う」「概ねそう思う」と答えた保護者は64.8%でしたので、15.9ポイント上がっています。

本年度の教職員の教科研修は昨年度に引き続いて道徳科でした。道徳科の難しさは授業中に身に着けた事柄が、どれだけ実生活の中で活かされるかです。理解できているが、行動が伴わないジレンマに、授業中、担任も子どもたちも悩みました。「本音を言う」とか「わかってはいるけど…」と自分の中で葛藤するのが道徳科の特徴です。しかし、その積み重ねがきっと行動の変容につながると信じています。3学期も公開授業を行い、道徳科授業研究を実施する予定です。



6、「お子さんは、マナーやモラル、ルールを守って行動することができますか。」

昨年度、「そう思う」「概ねそう思う」と回答した保護者は91.4%でしたが、本年度は89.7%で、大きな差異はありません。守らなければ罰則が科せられるような規則や決まりに対して、私たちは「守らなければ」という枠をはめて行動します。しかし、マナーやモラルは罰則がありませんので、「どこまで許すのか」、「黙ってられるのはどこまでなのか」のレベルは一人一人に任されています。そこで、本年度は、マナーやモラル、ルールについての話し合いを学級で行い、「感謝」「挨拶」「お礼」などについて重点的に考えさせた教員もいました。これからもこのような取組を続けていこうと思います。

7、「お子さんは、いじめたりいじめられたりすることなく、友だちと仲良く過ごしていましたか。」

91.7%の保護者が「そう思う」「概ねそう思う」と回答しており、昨年90.0%からほんの少し上がりました。新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休校で、友だちとのかかわりが薄かったため、学校が再開されてからの子どもたちは、友だちと一緒にいることを存分に楽しんでいるようでした。2学期になってからは、運動会等大きな学校行事の規模が縮小され、学級集団や学年集団での活動が少ないため、友だち同士のもめごともないように思われましたが、11月30日のいじめアンケートの結果を見るまでは心配でした。

いじめの予兆を感じ、子どもの言動の変化を見逃さないことが、何よりも大切だと教職員は思っています。学校に居づらくなっている子どもは絶対に作ってはなりません。そのために学期に一度のいじめアンケートを来学期も行います。

8、「お子さんは、近所の方にあいさつをしていますか。」

80.7%の保護者が「そう思う」「概ねそう思う」と回答し、昨年度より4.6ポイント上がりました。登下校時に見守っていただいている地元のみなさんからは、「言葉での挨拶はないけど、ぺこりとお辞儀してくれる。」という声をいただいています。また、「登校班集合場所にいる子どもが、挨拶しても知らぬ顔をする。」というご批判の電話もかかっています。「もしかして我が子かも…」と思われれば、「なぜなの？」と聞いてください。

おそらく、明確な理由は出てこないでしょう。

実際のところ、挨拶をしない子や、挨拶を返せない子を見ますと、心の底から挨拶を拒否しているのでは無いように思われます。「照れ」です。特に友だちと一緒にいると、恰好をつけてしまうようです。しかし、このような甘えが通用するのは短期間だけです。大人になって、挨拶に「照れ」は通用しないでしょう。だから家庭での対話を

心掛け、人として大切な事柄を教えていただけたらと思います。

健康

9、「お子さんは、投げたり走ったりする運動は得意ですか。」

69.4%の方が「できる」「概ねできる」と回答しています。特に投運動は本校児童が苦手な運動で、毎年スポーツテストではいい結果を出せていません。投運動は日常生活ではあまり出現しない運動です。バスや電車に間に合わない時のダッシュは走運動ですし、縄跳びで何回連続跳べるのかチャレンジしているときは、主に持久力や調整力の向上に役立つ運動をしています。しかし、投運動は物を遠くに投げたり、目的物に当てたり、運動環境が整わないとできません。昔からドッジボールや野球がその役目を果たしてきたのですが、最近の本校児童の様子を見てみると、ドッジボールをする子どもは年々少なくなっているように思います。児童アンケートの考察でも記載しましたが、2年生男子、5年生女子、6年生男子のソフトボール投げの記録は前年度より低く、投運動能力の低下が懸念されますので、学校ではそれ補う遊びの工夫に取り組んでいきます。



10、「お子さんは、放課後や休日、元気に外遊びを楽しんでいますか。」

本年度「そう思う」「概ねそう思う」と答えた保護者の割合は63.0%で、昨年度の66.3%からわずかに下がりました。コロナ禍において、子どもたちは遊びを制限され、遊具に触れることも友だちと近接することも制限された日々でした。体育の授業も、マット運動や鬼ごっこ、ボール運動は推奨される運動ではなく、遊びたいが遊べないという事態でしたので、63.0%の数値には納得せざるを得ません。早くコロナが終息することを願うばかりです。

全体

11、「お子さんが、地域の方から教えてもらったり、一緒に活動したりしていることをご存じですか。」

「そう思う」「概ねそう思う」と回答した保護者の割合は、56.0%です。1学期は感染症対策のため、ゲストティーチャーによる授業を中止していましたが、2学期からは徐々に実施しています。各学年で地域の方にお世話になった主な授業は次の通りです。

1年生：生駒の昔話、2年生：まちたんけん、3年生：警察の仕事、消防署の仕事、

4年生：点字体験・車椅子体験、6年生：生駒歴史探求 いこま学級：栽培活動



これらのことを学習した後は、どの学年も新聞などにまとめる学習をしていますので、児童が持ち帰りましたら、ご家庭でご覧ください。この結果を見て、学校といたしましても、取組の様子を学校だよりや学年だよりなどで、もっとお知らせしていかなければならないと思っています。

本年度からは全学年で郷土学習に取り組んでいます。生駒市の教育目標である「いこまを愛する子どもを育てる」をこれからも少しずつ実践していこうと思います。



12、「お子さんは、学習や行事など様々な教育活動を通して、楽しく学校生活を送っていますか。」

「そう思う」「概ねそう思う」と回答した保護者の割合は、95.6%で、昨年度(95.5%)とほぼ変わりありません。1 学期は社会見学や水泳指導が中止になり、2 学期は運動会やマラソンが規模縮小での開催になりましたし、社会見学や修学旅行は見学先を急遽変更するなど、今まで通りの行事ができない状況でした。しかし、子どもたちはそのような状況下でも、楽しみを見つけ、今までとは違うことを楽しみ、友だちと一緒に仲良く過ごせたように、この結果から感じます。

しかし、わずかですが、「我が子は学校生活を楽しめていないのではないか」とお考えの保護者がいらっしゃいます。臨時休校明けから、「学校へ行き渋っています」「学校に行きたがりません」という電話が急増し、不登校児童が過ごせる教室を急遽確保しました。お子さんのことで心配なことがありましたら、月1度、カウンセラーによる教育相談日を設けていますので、担任にどうかご相談ください。

13、「お子さんは、様々な体験を通して、豊かな心を身に付けることができましたか。」

91.8%の保護者が「そう思う」「概ねそう思う」と回答していますが、昨年度より3.9ポイント下がりました。本校教育目標のひとつに「他人を思いやる温かい心をもつ子の育成」があります。身に着きたい『豊かな心』のひとつが『他人を思いやる温かい心』なのです。保護者アンケートには、「勝敗がかかると他の人にきつく当たってしまう。」「自分の都合がよいように家ではふるまうので、学校での言動が心配。」という声がありました。子どもを変えていくのは『様々な体験』であり、『特別な体験』ではありません。学校の普段の暮らしの中で、そして、友だちとのかかわりの中で、思いやる心が育つように、教職員は子どもたちを見守っていきたいと思います。



14、「学校は、ボランティアや地域の皆さんの力を活かした教育を行おうとしていましたか。」

この質問に、「そう思う」「概ねそう思う」と回答した保護者の割合は、79.1%で、昨年度より3.5ポイント減少しています。今年のボランティア登録人数は103名で、登下校の見守りをはじめ、読み聞かせ活動、家庭科実習の補助等、学校教育全般にわたって支えていただきました。登下校時の子どもたちの体調不良やケガを学校に知らせていただいたり、学校に行きづらくなって路上で立ち止まった子をなだめて連れてきていただいたりしました。また、臨時休校により授業時間数が減少する中で、体験活動等の授業が通常通りできましたのも、ボランティアさんの力によるものです。読書ボランティアのとしょックスさんは、その活動の様子を生駒子ども読書会議で発表されました。

今後も継続してボランティアを募集いたしますので、地域や保護者のみなさんで興味や関心がある方は、いつでもご応募ください。そして、本校のボランティア活動について幅広く知っていただけたらと思います。

15、「学校は、教育方針や教育活動をわかりやすく伝え、御家庭と連携を図ろうとしていましたか。」

この質問に、「そう思う」「概ねそう思う」と回答した保護者の割合は82.6%で、昨年度の83.4%とほぼ変わりありません。学校の様子や思いは学校だよりで、学年の取組は学年だよりでお伝えしてきました。特に今年は、新型コロナウイルス感染症対策で、変更する学校行事や学習内容、それから、新しく実施しなければならない事がとても多く、保護者のみなさんに混乱をきたさないよう、できるだけ丁寧にお伝えしてきたつもりです。



なお、学校ホームページもご覧ください。子どもたちの学校生活の様子を掲載しています。そして、ご意見がありましたら、担任を通じて学校にご連絡ください。